

2026/01/22

和訳版

[ファイナル・リポート]

第 42 回 ミラノ・ウニカ

2026 年 1 月 20-21-22 日/フィエラミラノ・ロー

米国(+13.5%)とフランス(+8.5%)が来場者数の伸びを牽引 イタリア製高級テキスタイルおよび服飾資材の主要輸出国からのバイヤー来場が増加

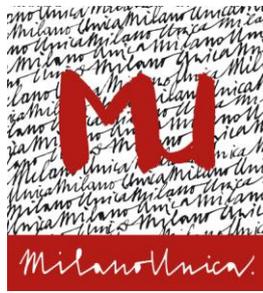
2026 年 1 月 22 日 — 2026 年 1 月 20 日から 22 日までフィエラ・ミラノ・ロー (Fiera Milano Rho) にて開催された高級テキスタイル・服飾資材の国際見本市「第 42 回ミラノ・ウニカ」は、2027 年春夏コレクションの発表の場となり、開幕時には欧州出展者数が 25%増という過去最高の伸びを記録しました。会期を通じて海外バイヤーの来場も増加し、盛況のうちに幕を閉じました。

国別ではフランス (+8.5%) と米国 (+13.5%) が来場バイヤー数において最も多い国となりました。さらに韓国 (+10%)、カナダ (+6.6%)、ドイツ (+8%)、日本 (+2.4%) からのバイヤー来場も増加しました。一方、英国及びスペインは、2025 年 2 月開催時と同様に高い来場実績を維持しています。

また、出展者数は総数 730 社を記録しました。内訳は Ideabiella、Moda In、Shirt Avenue のエリアにおける出展社数が計 585 社 (前年 2 月展比 5.2%増)、内欧州のテキスタイルメーカー 137 社 (25%増)、特別展示エリア、および日本、韓国の各オブザーバトリー出展者 129 社、出版社 16 社となりました。また、出展社数の増加に加え、今期のミラノ・ウニカは展示面積の拡大という点でも成長を遂げ、総展示面積は 25,803 m²に達しました。

1 月 20 日に行われた恒例の開会式は、ミラノ・ウニカ会長のシモーネ・カンクリーニ氏が、ヴァレンティノ・ガラヴァーニ氏を偲び、参列者に 1 分間の黙祷を呼びかけることから始まりました。その後、ロンバルディア州知事アッティリオ・フォンターナ氏 (リモート参加)、イタリア貿易振興機関 (ITA) 輸出中央局長マウリツィオ・フォルテ氏、そしてフィエラ・ミラノ財団会長ジョヴァンニ・ボッツェッティ氏より来賓挨拶が行われました。

カンクリーニ会長は、「直近 2 回の開催はこれまでで最高の成果を上げました。そして現在、本展示会はこの分野における国際的リーダーへと成長し、ミラノ・ウニカのゼネラルマネージャーであるマッシモ・モジエッロ氏とそのチームの確かな統率のもと、関係者および出展企業が一体となって取り組む体制が整い、確かな成果へと結実しています。」と振り返りました。さらにカンクリーニ会長は次のように続けました。「私たちには二つの目標があります。一つは、若い世代の参画をより一層促すことです。彼らの視点は不可欠であり、世界的な成功を支えてきた技術や技能を、確実に次世代へと継承していく必要があります。もう一つは、私たちの生地や服飾資材についてより多くそしてより良く、最終消費者に伝えていくことです。生地は衣服の成功に不可欠な要素です。私たちは“美”を生み出す生産者としてのリーダーであり、同時にサステナビリティの分野においてもリーダーなのです。」



最後にカンクリーニ会長は、メルコスール協定の重要性に言及するとともに、「EPR 指令が一日も早く法制化されることを願っています。リサイクルは、サプライチェーンにとってコベルニクスの改革をもたらす重要な要素だからです。」と強調しました。

教育とビジネスの連携の重要性を改めて示す企画として、ミラノ・ウニカは、サプライチェーン全体の継続性を確保することを目的に「Back to School」イベントを通じて、長年にわたり若い世代の育成支援に取り組んできました。今回の開催では、デザイナーであり起業家でもある**ジュゼッペ・ディ・モラビト**氏をゲストに迎え、『ヴァニティ・フェア』のファッション・エディターである**フェデリコ・ロツカ**氏との対談が行われました。モラビト氏は、現代のコンテンポラリーな時代背景の中で築いてきた自身の成功体験について語りました。

「原材料はすべての出発点です。それは家における歴史や基礎のようなもの。原材料がなければ『その先』は存在せず、歴史がなければ現在も未来もありません。原材料は本質的に重要であり、その価値は言葉そのものに表れています。」同氏は、この大きく複雑な変革の時代に歩んできた自身の経験を学生たちと分かち合いました。

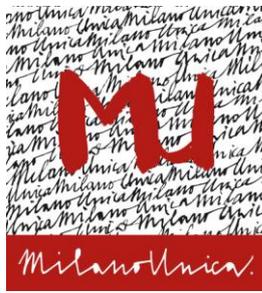
続いて、ジャーナリスト・エッセイスト・テレビキャスターの**ニコラ・ポッロ**氏が議論をリードし、**ジュゼッペ・ヴァルディタラ**教育・能力開発担当大臣との対談からスタートしました。議題は特に、職業教育の将来に焦点が当てられました。ヴァルディタラ大臣は、北欧諸国、特にドイツにおける実務型教育の豊富な経験に言及し、産業発展を支える取り組みとして紹介しました。また、政府が承認した学校のデジタル化支援のための 20 億ユーロ超の大規模投資についても触れました。さらに大臣は 4+2 テクノロジー職業教育プログラムが若者の間で大きな成功を収めており、前年度と比べて入学者数が倍増したことを強調し、学校と企業の連携がさらに深まることへの期待も表明しました。

開会式の中心的な議論は、ニコラ・ポッロ氏の司会のもと行われ、原材料の戦略的重要性に加え、その価値を最終消費者に正しく伝えていくためには、より踏み込んだ情報発信が不可欠であることが改めて確認されました。

続いて、サンフォード・C・バーンスタイン・スイス社 ラグジュアリーグッズ部門 マネージングディレクターの**ルカ・ソルカ**氏が、イタリア製生地が世界市場で置かれている競争環境について解説しました。高級市場は現在堅調ですが地政学的な不確実性の影響を軽視することはできず、株式市場に影響するだけでなく支出制限のない層の消費行動にも影響を与えています。同時に、中国、米国、ヨーロッパでは、中間層の購買力が圧迫されており、ラグジュアリーブランドの費用を維持できない状況も広がっています。将来を見据えるとこのセグメントでは中価格帯が勝利する見込みであり、「優れた品質を、より手の届きやすい価格で提供すること」が鍵になると指摘しました。

ボッコ二大学 経営・技術学部の**ステファニア・サヴィオ**教授は、消費者の「知識・理解の伴わない認識」(awareness without competence) の概念を説明しました。最終消費者は品質の存在を認識していても、上流のサプライチェーンや使用される素材の特性、生産プロセスを理解していないため、衣服を正しく選ぶ能力を欠いていることがあります。そのため衣服の価値に対する消費者の信頼を構築し、原材料という基礎的な役割から制作までの研究や作業の物語を伝えることが必要だと指摘しました。

一方、ヘルノ社およびモントゥーラ社の**クラウディオ・マレンツィ**社長は、消費者の評価が生地の品質や本質的価値よりも、着用時の衣服の性能に重きを置く傾向にあることに注意を促しました。さらにイタリア国内では高級および超高級品を完全に国内生産することは可能ですが、プレミアム製品の製造は他国で行わざるを得ません。イタリアの人件費では十分な利幅を確保できないためです。利幅を確保するには、税負担を 30%削減する必要があると述べました。そして、「中国やインドでは良い製品は作れない」と思い込むべきではなく、むしろ非常に優れた製品を生み出せることを強調し



ました。そのうえで、私たちの仕事への愛情や熟練した職人の情熱に基づく“何か特別な価値”を付加することで、自社製品の価値に対する認識を変えていく必要がある、と締めくくりました。

『ヴァニティ・フェア』欧州版 編集ディレクター兼編集長の**シモーネ・マルケッティ氏**は、ファッション業界が「攻撃にさらされている」と指摘しました。明らかになった労働搾取の事例は業界全体のわずか2%に過ぎませんが、残りの98%のイメージに悪影響を与えていると述べています。この新しい時代においては、物語（ナラティブ）も進化させる必要があり、環境面のサステナビリティだけでなく、人に関わる持続可能性（ヒューマンサステナビリティ）も含めるべきだと強調しました。さらにイタリアの卓越した技術やデザインは、新しいグローバルなナラティブの一環としてユネスコ世界遺産に登録されるべきだと提案しました。

閉会の挨拶として、イタリア企業・メイド・イン・イタリアー副大臣である**ヴァレンティーノ・ヴァレンティーニ氏**は次のように述べました。

「ミラノ・ウニカは、生地と服飾資材なくしてラグジュアリーやメイド・イン・イタリアーは成立しないことを私たちに思い出させてくれます。これらはスタイルに形を与える不可欠な要素であり本質そのものです。そして市場の鈍化や国際的需要の不確実性が続くこの複雑な二年間において、製品の産業的価値を再び軸に据え、真のものづくりへと立ち返る勇氣が必要です。だからこそ MIMIT（企業・メイド・イン・イタリアー省）として、開発契約における1億ユーロのファッション支援や、2026年度予算におけるヌオヴァ・サバティーニ制度（中小企業向け設備投資支援策）の再資金化といった具体的施策を導入しました。これらの資源は違いを生み出し続けるために不可欠です。しかし主役はあくまでビジネスを担う企業です。世界的な超高速ファッションとの価格競争には対抗できませんが、透明性、トレーサビリティ、そして真のサステナビリティによって競争力を確立することができます。2026年は真価が問われる年となるでしょう。しかし政府はその評価が卓越性を正当に報いるものとなるよう、企業と共に歩んでいきます。」

「今回の3日間の会場の雰囲気は、開会式で示された2026年の前向きな見通しに対する慎重な樂觀を裏付けるものでした。一方、地政学的な状況の変化に対する懸念は依然として残っています。さらに、多くの新規海外バイヤーとの良好な交流に対する高い満足度は、私たちがリーダーシップを一層強化していく必要性を改めて認識させるものとなりました。

この成果は、外務・国際協力省およびイタリア貿易振興機関（ITA）との協力によって達成されたものであり、形式的ではなく、心から感謝の意を表します。また、長年にわたるパートナーであるバンカ・セッラ（Banca Sella）、そしてかけがえのない支援をいただいたラウレターナ（Lauretana）にも心より感謝申し上げます。」と、ミラノ・ウニカのゼネラルマネージャーである**マッシモ・モジエツロ氏**は締めくくりました。

[詳細情報]

Milano Unica Press Office tel. +39 02 6610 1105
Alessandra Ardenzi mob. +39 335 677 46 20
Daniela Scardi mob. +39 366196497